品川区立水神保育園　テーマ：忍者　対象年齢：5歳児

設定理由：

普段の遊びの中で子どもたちが物陰に隠れたり、声をひそめて歩いたりしながら忍者になりきって遊ぶ姿が見られた。「手裏剣を作りたい」という声から手作りの手裏剣で遊び始め、的あて遊びを取り入れることで、さらに「忍者についてもっと知りたい」「もっと遊びたい」という気持ちが高まってきた。これらの子どもたちの姿からさらに忍者の世界を広げ、なりきって遊ぶことを存分に楽しみ、子どもたちが興味関心を持てるようにテーマを『忍者』に設定した。

事例　1
『忍者からの手紙』

忍者から手紙が届き、悪者忍者が保育園に忍び込んだ設定で、手紙のヒントを頼りに忍者探しを計画した。

事例　2
『頭巾作り』

忍者になりきるために、保育者が新聞紙で忍者頭巾を作ると、もっと丈夫な頭巾を作りたい、と声があったので白い布から絞り染めで自分だけの忍者頭巾を作ることを計画した。

事例　3
『本物の忍者が現れた！』

忍者への憧れが高まる中で、子どもたちから“本物の忍者に会ってみたい”という声が聞かれた。そこで業者を招き、忍者に会う計画をした。

【事例　1】忍者からの手紙

★ねらい　目には見えない忍者の存在を知り、興味関心を深める
★用意した環境　手紙、悪者忍者のイラスト(ヒント)、宝(手裏剣)
★活動内容　忍者探し、宝探し

★子どもたちの様子

ある日、「悪者忍者が保育園に忍び込んだ」と書かれた手紙が届く。正体がはっきりしないことから想像が広がり、戸惑う様子も見られたが「探したい！」「見つけよう！」と自分たちで立ち上がり、3 グループに分れ、そっと歩いたり小さな声で伝えあったりしながら悪者忍者(イラスト)を探し始める。発見すると文字が書いてあることに気づき、「これとこれをつなげるんじゃない？」「3 つ並べてみよう」と友だちと相談しながら3つの文字をつなげ『ホール』という答えに行きついた。ホールに行くと「宝を隠してある」と書かれた手紙を発見し、手裏剣の宝を見つけた時には大きな歓声があがっていた。「悪い忍者が来た時にやっつけられるようにもっと修行しておこう」「もらった手裏剣を今度、悪い忍者が来たとき用に取っておこう」「悪者じゃなく味方の優しい忍者に会いたい」と次への期待を膨らませていた。

★保育者の振り返りと気付き

悪者忍者という存在に不安を感じ、怖がる子の姿も見られたが「大丈夫。一緒にいよう」とそばにいてくれる子がいたり、みんなで協力したりして探索する姿が見られた。また、悪者忍者の登場により、忍者の修業をしようと意気込み、次への意欲を引き出すきっかけにもなった。忍者について術をみんなで調べて、実際に動いてみたりまた新しい道具を作ってみたりして遊びを展開していきたいと感じた。

【事例　2】オリジナルの頭巾作り

★ねらい　忍者になりきるための頭巾を手作りし、模様や染まり方を期待して絞り染めを楽しむ
★用意した環境　染料、白い布、お湯、鍋、タライ、割りばし、輪ゴム、洗濯ばさみ
★活動内容　忍者頭巾を作る（布を輪ゴムで留める・布を染める）

★子どもたちの様子

保育者が染める手順を子どもたちの前で実際に見せることで「どうやって模様ができるのかな」「次はどうなるんだろう」と期待や興味を高めながら活動に参加していた。実際に染料や鍋をみて熱いお湯を使うことなどの手順を知り、「黄色でやってみたい」「紫がいいかな」と自分が染めた時のイメージをもち染めることを楽しみにしていた。輪ゴムで布を留める工程では、強く結ぶことが難しい子もいたが保育者と一緒に繰り返し経験することで一人でも留められるようになる姿も見られた。

★保育者の振り返りと気付き

忍者になりきって遊ぶ活動の中で行った絞り染めによる頭巾作りは、出来上がりを楽しみにしながら作業を進め、完成した頭巾を身に着けた時の満足そうな表情から、達成感や自信に繋がっていることを感じた。また、顔を覆う頭巾に使うイメージだけでなく、この頭巾を使ってむささびの術をやってみたいなどの声も聞かれ、子どもたちのなかで様々な遊びのイメージを持っていることが分かった。今回の経験から子どもの発想を大切にし、さらに遊びを展開していきたいと感じた。

輪ゴムで留めるのって難しいな

どんな模様になるかな

緑の忍者がいいな

オリジナル頭巾が完成！

【事例　3】本物の忍者が現れた！

★ねらい　本物の忍者を見て、さらに興味関心を深める

★用意した環境　（忍者業者）忍者歌舞伎「夢幻陣」、持ってきてもらった道具（手裏剣等）、
（保育園）忍者からの手紙、暗号、忍者図鑑

★活動内容　忍者ショー、忍者体験

★子どもたちの様子

ある日、本物の忍者から保育園に遊びに来るという手紙が届く。「やったー」「本当に来るの？」と子どもたちが楽しみにしている様子が見られた。忍者が登場すると、「にんじゃがきた！」「かっこいいね」など、目を輝かせ衣装や動き、技に真剣に見入っていた。中には不安そうな表情を見せる子もいたが保育者の隣に座り、安心しながら参加していた。忍者が戦う場面では、「かんばれ！」と応援したり拍手をしたりして終始楽しんでいた。実際に忍者から様々な術を教えてもらい、質問コーナーでは「何を食べるのか」「トイレはどうしているのか」など直接質問する姿も見られ、疑問に思っていたことを聞くことができ、「そうだったのか」と満足した様子が伺えた。

★保育者の振り返りと気付き

忍者が来る日を心待ちにしていた子どもたちは、最後まで前のめりになりながら見ていた。また様々な術を教えてもらい、今まで自分たちなりに調べてきた忍者から実際に伝授してもらったことにより忍者についてさらに興味を持つきっかけになったと思う。今後も子ども達の興味関心に寄り添い「やってみたい」「知りたい」という思いを大切にしながら活動の幅を広げていきたいと感じた。

忍者登場！

手裏剣の投げ方を教えてもらったよ

隠れ身の術

忍者に質問したよ